

性感染症クリニックの実態調査と啓発

研究分担者 川名 敬 (日本大学医学部産婦人科学系産婦人科学分野)

研究要旨

本研究では、産婦人科医が勤務する性感染症クリニックにおける性感染症の実態を把握するために、都内の全産婦人科医療機関にアンケートを実施し、性産業従事者 (CSW) と非 CSW について梅毒をはじめとする性感染症の受診実態を調べた。産婦人科における診療において、梅毒を性感染症検査に組み込んでいる施設が全施設とは言えず、梅毒流行期において産婦人科医の認識が不十分であることが浮き彫りとなった。2019 年度は、東京都、埼玉県を中心に、梅毒の検査の必要性の啓発活動を学会、研究会などで行った。

A. 研究目的

性感染症は、女性においては、20 歳代の若年女性が標的となっている。4 大性感染症のいずれも女性の罹患ピークは 20 歳代にあり、男性のそれと比べると明らかに若年である。これらの女性の感染源を考えると、性産業がその現場となっていることが推定される。

性産業と婦人科領域は関連性が高い。特に若年女性の性感染症の一部は、性産業従事者に集中する。性交渉による望まない妊娠に対する避妊の意識は、性産業従事者の中でも比較的高く経口避妊薬等による予防が容易である。しかし、性感染症については、女性自身だけで予防し切れるものではない。性器ヘルペス、尖圭コンジローマ、梅毒は、性的接触によって容易に感染する性感染症である。

その中で、近年問題となっているのが梅毒である。また、梅毒の温床が性産業であるとの報告も国内のサーベイランスからも見えている。性産業を利用した男性から、一般女性への感染も臨床現場では散見され、それがさらに妊娠と関連した場合には、母子感染を引き起こし先天梅毒に至る。2014 年以降、女性梅毒患者は、そ

れ以前と比べて、10 倍近くになっており、それに伴って先天梅毒も増加している。日本産科婦人科学会の感染症実態調査委員会で開催した全国調査では、14 万分娩をカバーしている地域中核病院へのアンケート調査において 2012 年～2016 年の 5 年間に約 160 例の梅毒合併妊婦が報告され、20 例の先天梅毒が発生していた。また、最近実施した同委員会の追跡調査では、ほぼ同期間で 29 例の先天梅毒であることも判明した。性産業に発する感染症が次世代にも影響を及ぼし始めている。

梅毒の流行が終息しない原因として、産婦人科の梅毒に対する危機感の欠如、知識、診断・治療能力の低下が挙げられる。上述のような妊婦の場合は、妊娠初期の全例スクリーニングが求められているため、産科診療所では梅毒抗体検査が実施され、不顕性感染例も含め、梅毒合併妊婦をキャッチできる。

しかし、分娩を取り扱っていない施設 (性感染症や性産業従事者を頻繁に診察している施設も含む) では、顕性、不顕性ともに梅毒を見落としていることが懸念される。

2012 年くらいまでは、女性梅毒患者数は年間

国内で 100-200 例であったため、産婦人科に受診する梅毒患者はほぼ皆無であり、産婦人科医の経験値が明らかに低下していた。現在、現役の産婦人科診療を行う医師が梅毒の診断ができないでいることが流行を招いていると言っても過言ではない。そこで、本研究では、産婦人科クリニックにおける梅毒検査の実施に関する実態調査を実施し、その結果を産婦人科医にフィードバック、啓発することを目指している。

B.研究方法

2018 年度に、日本大学医学部研究倫理委員会の承認のもと、郵送によるアンケート調査を実施した。簡単に内容を記載すると、2018 年 11 月～2019 年 1 月末に調査を実施した。郵送による無記名アンケート調査 (A4、表裏 1 枚)。対象は、都内の産婦人科を標榜する全医療機関の責任医師とした。CSW と、非 CSW に分けて、性感染症の受検者数、検査内容、等の実態を調査した。過去 2 か月間の受検者について回答して頂いた。アンケート調査締切 2019/1/31 とした。

【質問内容】

まず、自己申告によって CSW と認識できた患者を確認し、STD チェックの検査内容について梅毒検査、HIV 検査、性器クラミジア検査、淋菌感染症検査、性器ヘルペス検査、A 型肝炎検査の有無を確認した。また、患者側の意識として希望があったかどうかを確認した。実際の梅毒検査陽性者についても調べた。

さらに、CSW と認識できない患者 (CSW 以外の患者) についても同じ質問を実施した。

2019 年度は、これらのアンケート結果を集計し、これを用いて、産婦人科医への啓発活動を実施した。

(倫理面への配慮)

アンケート調査において、患者からのアンケートを実施する場合は、無記名アンケートとして個人を同定できないように実施する。また、

研究倫理審査は、研究分担者の所属施設 (日本大学医学部) で行うこととし協力機関からの倫理審査の委託を受ける予定である。

C.研究結果

これらのアンケート用紙を郵送したのち、2 か月を経て 2019.1.31 までに回収を終えた。866 機関にアンケートを郵送し、回答数は 303 (回収率 35%) (1/31 時点)であった。

2019 年度に最終的な解析を実施し、その中で特に、以下の点に注目し、産婦人科医への啓発のポイントと考えた。

1. 産婦人科医療機関における CSW 受診行動と梅毒検査の実施状況

2018 年 10-11 月の 2 か月間で、性産業従事者 (以下 CSW) の受診がある医療機関と、受診がない医療機関に分けて解析した。CSW (自己申告) が受診した (2018 年 10-11 月) 施設は、122 施設 (40.3%) であった。

CSW 受診がある医療機関では、梅毒検査を実施しているのが、122 施設中 110 (約 90%) 施設であった。約 10%の施設では性産業従事者が受診しているにも関わらず、梅毒検査を実施していない施設があった。一方、CSW の受診がない医療機関では、181 施設中 121 (約 67%) 施設は梅毒検査を実施していないと回答した。そのうち、STI チェックセットに梅毒抗体検査が入っているのは約 90%で、約 10%は梅毒抗体検査が含まれていなかった。CSW 受診のない医療機関では、梅毒抗体検査を行っていない施設が約 67%を占め、梅毒抗体検査への意識が有意に低かった。

2. 産婦人科医療機関における非 CSW の STI 希望受診と梅毒検査の実施状況

次に、非 CSW で STI チェック希望の受検者がいた医療機関といなかった医療機関に分けた。自己申告による非 CSW で、STI チェックを希望した受検者がいた (2018 年 10-11 月) 施設は、187

施設 (61.7%) であった。非 CSW のため、STI チェック希望があったにもかかわらず、梅毒検査を実施されたのは、187 施設中 136 (約 70%) であり、梅毒検査が STI チェックの項目に入っていない医療機関が 30% であった。STI チェック希望の受検者が居ない医療機関では約 70% が梅毒検査を行っていない。非 CSW (自己申告なし) の女性に対する STI チェックにおいて、梅毒抗体検査の未実施率は約 27% であり、CSW (自己申告) に比べて高く、医療機関の意識が低いことが窺える。

3. 受検者からの STI チェック希望項目

そこで、受検者側の認識を知るために、受検者がどのような STI チェック項目を希望してきたかを確認したところ、CSW の受検者が来院した 303 施設中 101 施設、非 CSW の STI チェックを実施した 303 施設中 80 施設、が患者からの梅毒検査希望があったと回答した。すなわち、患者自身が梅毒検査を実施するべきと認識していたと回答した医療機関は、約 3 分の 1 のみであった。特に、非 CSW 女性の意識が低いことが分かった。

これらのポイントについて、2019 年度は、以下の 6 回の講演活動を実施し、産婦人科医への啓発を実施した。

【本年度の啓発活動の実績】

- ・「性感染症の診断・治療～アップデート」第 52 回城北産婦人科研究会、2019.12.3 @ メトロポリタンプラザ
- ・「産婦人科医にとって怖い感染症～日本の現状と将来像」第 19 回埼玉県産婦人科医会手術・感染症研究会、2019.10.5 @ 埼玉県県民健康センター
- ・「女性の梅毒患者と先天梅毒～都内の調査と全国調査から見えてくるもの」第 303 回東京産婦人科医会 臨床研究会 (東京都との共同開催)、2019.10.5 @ TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
- ・「梅毒と先天梅毒の最新知識と都内・全国の産

婦人科診療の実態」2019 年度周産期ネットワーク連携会議、2019.9.5 @ 日大板橋病院

・「妊娠と感染症—その対処法」第 35 回日本分娩研究会、2019.10.10 @ ヒルトン東京ベイ

・「女性の健康対策～婦人科の立場から～」東京都医師会・日本大学医師会主催、2020.3.15 @ 日大医学部

D. 考察

東京都は、梅毒患者数が全国でも突出した一位であり、梅毒に関する産婦人科医の意識向上が最も急務な地域である。我々が収集した実態調査結果では、女性患者は梅毒に対する意識がより低く、性感染症というと、クラミジア・淋菌のみと考えていることが窺える結果であった。今回は、CSW と非 CSW に分けて検討したが、自己申告による CSW であったことから、バイト感覚で性産業に従事している女性は、非 CSW として扱われている可能性がある。これらの女性は、CSW 以上に意識も知識も低いかもしれない。流行期においては、医療従事者側の産婦人科医が積極的に梅毒抗体検査を勧める必要がある。

女性梅毒患者の年齢ピークが 20 代であり、分娩と被ることも懸念される。産科よりも婦人科クリニックでの早期発見・早期治療が流行を終息させるカギとなると考えられた。

E. 結論

本実態調査により、産婦人科医療機関における梅毒検査の必要性の認識を啓発することが必要である。これらの医療機関への啓発活動は、梅毒患者の早期発見に直結すると考えられた。

F. 健康危険情報

特になし

G.研究発表

1.論文発表

1) Ueda Y, Kawana K, Yanaihara N, Banno K, Chhit M, Uy K, Kruey L, Sann CS, Ishioka-Kanda M, Akaba H, Matsumoto Y, Fujita N, Yano T, Koum K, Okamoto A, Kimura T, Development and evaluation of a cervical cancer screening system in Cambodia: A collaborative project of the Cambodian Society of Gynecology and Obstetrics and Japan Society of Obstetrics and Gynecology. J Obstet Gynaecol Res. 2019 Jul;45(7):1260-1267. doi: 10.1111/jog.13968

2) Ikeda Y, Uemura Y, Asai-Sato M, Nakao T, Nakajima T, Iwata T, Akiyama A, Satoh T, Yahata H, Kato K, Maeda D, Aoki D, Kawana K, Safety and efficacy of mucosal immunotherapy using human papillomavirus (HPV) type 16 E7-expressing Lactobacillus-based vaccine for the treatment of high-grade squamous intraepithelial lesion (HSIL): the study protocol of a randomized placebo-controlled clinical trial (MILACLE study), Jap J Clin Oncol, 2019 Sep 1;49(9):877-880. doi: 10.1093/jjco/hyz095.

1) 川名 敬、【内科医に求められる他科の知識-専門家が伝える Do/Don't】(第5章)産婦人科 子宮頸がん、内科、124 巻 3 号 2019、1907-1910

2)川名 敬、【外陰疾患を極める】疣贅(イボ)、産婦人科の実際、68 巻 9 号 2019、1117-1122

3) 川名 敬、【産婦人科感染症の最前線】拡がり続ける感染にどう対策するか HPV, 梅毒、日本産科婦人科学会雑誌、71 巻 5 号 2019、652-659

4)川名 敬、【性感染症-実態と問題点を探る-】性感染症の疾患別に見た現状と問題点 尖圭コンジローマの診断と治療、そしてヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンの有害事象の総括と今後、

日本臨床、77 巻 2 号 2019、294-300

5)川名 敬、【実践的感染症診療】内科医が知っておくべき予防接種 子宮頸癌ワクチン、Medical Practice、36 巻臨時増刊、2019、369-373

2.学会発表

1)「性感染症の診断・治療～アップデート」第52回城北産婦人科研究会、2019.12.3、東京

2)「産婦人科医にとって怖い感染症～日本の現状と将来像」第19回埼玉県産婦人科医会手術・感染症研究会、2019.10.5、埼玉県

3)「女性の梅毒患者と先天梅毒～都内の調査と全国調査から見えてくるもの」第303回東京産婦人科医会 臨床研究会(東京都の共同開催)、2019.10.5、東京

4)「梅毒と先天梅毒の最新知識と都内・全国の産婦人科診療の実態」2019年度周産期ネットワーク連携会議、2019.9.5、東京

5)「妊娠と感染症-その対処法」第35回日本分娩研究会、2019.10.10、千葉

6)「女性の健康対策～婦人科の立場から～」東京都医師会・日本大学医師会主催、2020.3.15、東京

H. 知的所有権の出願・登録状況(予定を含む)

①特許取得

②実用新案登録

③その他

なし